

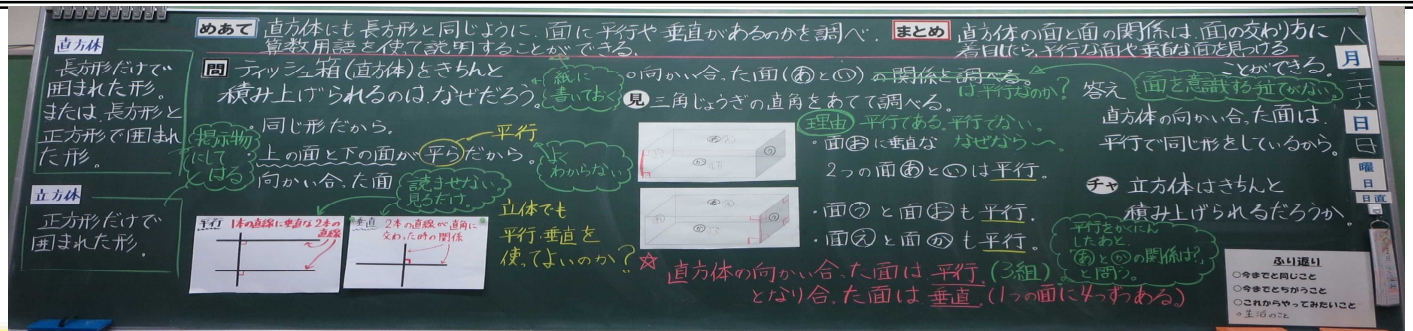
第3回

授業づくり講座 教材研究会

香美市立舟入小学校

第4学年 「面や辺の平行・垂直」授業者 川崎 一成 教諭

図形を学ぶことへの意欲をもたせる単元としての導入部分で、直方体の構成要素の在り方（面と面の関係）を正確に捉えることが、面と辺の関係、辺と辺の関係、見取り図や展開図の作図を行う上での基礎となる学習であることと考え、本教材を授業者は選定しました。図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目することを本授業で付けるべき資質・能力として設定しました。本時に働かせたい見方・考え方としては、二次元で見いだしたことが三次元でも活用できることを三角定規を使い、根拠を基に直方体の性質について捉えることとし、模擬授業・研究協議を行いました。校内での事前教材研究として、学力調査結果から課題が見られたことから、従来の教科書の指導計画を変えて、横浜版学習指導要領を参考に、単元指導計画をリメイクし、本研究会を行いました。

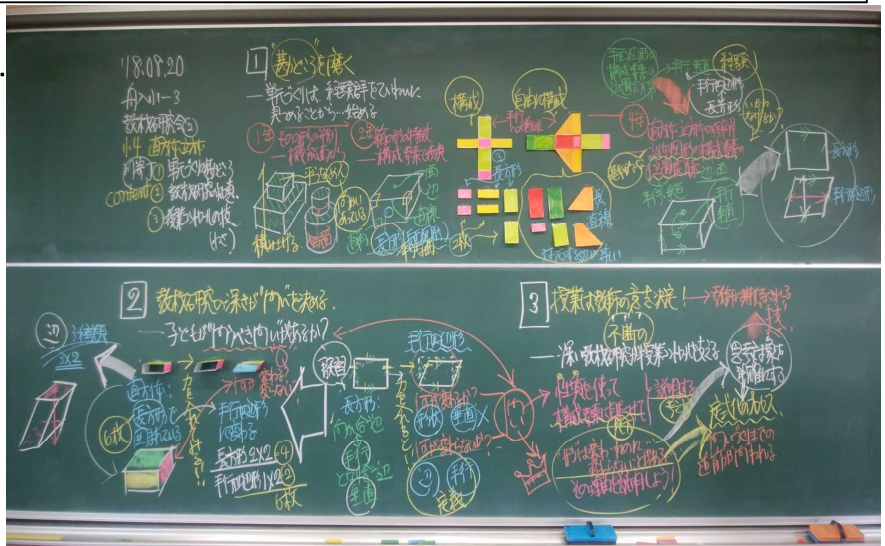


リフレクション

研究協議では、授業者が提案した付けるべき資質・能力や見方・考え方を働かせることができるのかどうかを、模擬授業を見て協議しました。児童が主体的に考える問いになっているのか、自力解決で何を考えさせるのか、多くの気づきと改善点が出されました。教科書では教える内容として扱っている図形の概念指導を、どのように児童に意味・理解させていくのか難しいという声が聞かれました。

学力向上総括専門官より

- ①「勘どころ」を磨く・・・児童の既習の経験を丁寧に見つめ、先を見通した学習の素地経験をもたせておくこと。具体物を教師自らが作って指導すること。
- ②教材研究の深さが「問い」を決める・・・4年の四角形（長方形・平行四辺形）の授業が極めて大切で、2つの立体を用いて比較させた問いの具体。（右板書写真参照）。変わるところ変わらないところを表現させる。
- ③授業は教師の不断の意思決定！・・・指導案通りに授業は流れるものではないこと。思考対象を明確にし、問いづくりの定式化へのプロセスが教師に求められる技であること。



◆参観者より

- 資質・能力とは、今まで何ができて、これから何ができるようになるのかであり、それが授業の中で児童の問いとなり、教材（図形）の定義となるような単元づくりや学年を超えて話し合うことが大切であることを学びました。
- もっと子どもの経験を丁寧に見つめ直すことが大切だと実感しました、「何ができるようになって、これから何をできるようにしていくのか」を土台として、変わったことと変わらなかったことの比較など、子どもの思考で授業づくりを考えることが必要だと学びました。既習を捉えること、子どもたちの生活的な経験を見つめ直すことも単元づくりを行う際に取り入れていきたいです。
- 教材研究をする際に、自分の考えや指導書だけに偏らないように自分自身の捉え方や見方考え方を広げていきたいです。

この教材研究会を生かした
授業研究会は、**1月31日**
(木) PMです！ぜひご参加
ください。